

主な要因	配慮すべき事項
動作寸法・筋力の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・低い所や高い所における収納の配慮 ・開口部の取っ手は使いやすい形状にする ・操作しやすい形状の水栓とする ・コンセントなどの取り付け高さに注意する
つまづきやすく、転倒しやすい急勾配での昇降移動が困難	<ul style="list-style-type: none"> ・ unnecessaryな段差は設けない ・滑りにくい床材を選定する ・勾配が緩やかで、踏み外しにくい階段とする ・必要箇所へ手すりを設ける ・浴室への出入りが安全に出来る様に配慮する
運動能力の低下による車椅子の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・調理台カウンター、洗面台の下部にクリアランスを設ける ・便座は腰掛式、車椅子動線部分を確保する
俊敏性、生理・感覚機能の衰え	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス漏れ警報器、火災報知器、消火装置の設置 ・開口部の戸は適切な開き勝手のものにする ・適切な冷暖房・換気設備を設置する ・適切な室温を維持できるようにする
視力の低下・視野の低下、色識別能力の低下	<ul style="list-style-type: none"> ・適切照度、均一照明の確保 ・つまづきやすい箇所での照度に配慮する ・手暗がりになりやすい部分の照明に配慮する ・適切なスイッチを使用する ・中途半端な段差、見えにくい段差を設けない